

不妊に悩む方への特定治療支援事業の実施医療機関 情報提供事項（任意回答事項）

医療機関名	埼玉医科大学総合医療センター
所在地	川越市鴨田1981
電話番号	049-228-3411

治療実績について

※直近1年間（2019年1月から2019年12月まで）の治療実績（治療開始時点において、35歳以上40歳未満である女性に対して実施した治療）

【新鮮胚又は卵子を用いた治療成績】

	IVF-ET	Split	ICSI	合計
採卵総回数（回）	33	14	35	82
移植総回数（回）	4	2	11	17
妊娠数（回）	1	0	3	4
生産分娩数（回）	0	0	2	2
移植あたり生産率（%）	0%	0%	18%	11%

IVF-ET：採卵により得られた全ての卵子に対し、体外受精を実施

Split：採卵により得られた卵子に対し、体外受精と顕微授精に分けて実施

ICSI：採卵により得られた全ての卵子に対し、顕微授精を実施

【凍結胚を用いた治療成績】

	融解胚子宮内移植
移植総回数（回）	69
妊娠数（回）	32
生産分娩数（回）	21
移植あたり生産率（%）	30%

来院患者情報

【直近1年間に体外受精・顕微授精・胚移植を行った患者数（2019年1月から2019年12月まで）】

患者の年齢	患者数（人）
25歳未満	1
25歳以上30歳未満	24
30歳以上35歳未満	56
35歳以上40歳未満	159
40歳以上43歳未満	147
43歳以上	18

【直近1年間に精巣内精子採取術を行った患者数（2020年1月から2020年12月まで）】

患者の年齢	患者数（人）
20歳未満	0
20歳以上30歳未満	0
30歳以上40歳未満	1
40歳以上50歳未満	0
50歳以上	0

治療方針について

日本産科婦人科学会ガイドライン、日本生殖医学会によるガイドライン（2021年出版予定）や「生殖医療の必修知識」（いずれも一部の執筆を担当しています）の他、米国生殖医学会や欧州生殖医学会の最新ガイドラインに基づく治療を行っています。

定期的なミーティングを行い、診療チームの方針の統一を図っています。

具体的には、

最適な卵巣刺激法と人工授精の組み合わせによる一般不妊治療（最長1年間程度）を行い、妊娠に至らない症例に関しては、生殖補助医療を行います。

生殖補助医療では、年齢や卵巣予備能に基づく安全かつ効率的な卵巣刺激を選択します（詳しく記載された学術誌の編集や執筆、専門医向けのセミナー等を担当しています）。

低卵巣予備能症例に対しては、低刺激法を主として施行し、新鮮胚移植を実施しています。

中・高卵巣予備能症例に対しては、原則として高卵巣刺激法を選択し、全胚凍結を施行しています。

また、卵巣刺激にあたっては、年齢の上昇に伴って受精卵の染色体異常率が上昇する（妊娠成立に必要な受精卵が増える）ことにも配慮しています。

子宮筋腫、子宮内膜症、子宮腺筋症などの婦人科疾患を合併する症例に対しては、適切な腹腔鏡手術や内分泌療法を併用し、妊娠率と安全性の向上を目指しています。

高血圧、透析を含む腎不全、悪性腫瘍、精神疾患等、多様な合併症を持つ不妊症患者さんに対しても、当院内科や周産期チームと連携して、安全な不妊治療を実施しています。